



FY25 インパクト レポート  
エグゼクティブ サマリー

「デザインと創造」で実現する

すべての  
人々にとって  
より良い世界





# エグゼクティブ サマリーに ついて

本サマリーは、FY25 年次インパクト レポート(対象期間:2024 年 2 月 1 日~2025 年 1 月 31 日)の主要データと実績に基づき、オートデスクが事業運営、顧客とのパートナーシップ、業界変革の推進を通じて環境・社会にもたしたポジティブな影響を概説します。

すべての人々にとってより良い世界をデザインし、創造するために、オートデスクと共に取り組むお客様、コミュニティ、従業員の皆様に心より感謝いたします。

詳細については、『FY25 インパクト レポート』のフルバージョン(英語)をご覧ください。





# オートデスク社長兼最高経営責任者と 最高サステナビリティ責任者からのメッセージ

急激に変化し続けている時代の中で、現代のビジネスリーダーは、目の前の課題に対処するだけでなく、将来的に何をを目指すかを見定める必要もあります。サステナブルかつレジリエントな未来に向けた道のりには、さまざまな課題が待ち受けています。そのため、私たちは目的意識と先見の明をもって計画を立てていかなければなりません。

不安定なマクロ経済や地政学的な混乱、テクノロジーの変動などの重圧に迫われながら、以前にも増して迅速に課題に対処していく必要がありますが、そればかりに囚われてしまえば長期的な展望から逸れてしまうおそれもあります。重要なのは、短期課題への対処と長期視点の両立です。現在の課題に向き合いつつ、持続的なポジティブな成果を目指します。

企業にとって、安全かつ低コストなエネルギーの確保や、AI への投資を通じた価値競争は、ビジネスにおける重要な優先事項ですが、サステナビリティの取り組みはこれらと競合してしまいます。つまりサステナビリティの取り組みは多くの面でまだ発展途上にありますが、だからこそこれを実践し、価値を具現化していくことが重要になります。オートデスクはこのバランスを実現し、優れた価値を従業員やお客様、広範なビジネスエコシステムに提供するために、全力で取り組んでいます。

オートデスクは、自社のリソースを責任をもって管理しながら、リスクを軽減し、従業員が仕事で最大の力を発揮できるようにするための支援に投資し続けています。また、イノベーションやさまざまな活動を通じてサステナビリティを推進し、再生可能エネルギーを基盤とする未来への移行を加速させています。今年は仮想電力購入契約(vPPA)の活用を開始したほか、カーボンリムーバル(炭素除去)分野への投資も継続しています(これはまだ生まれたばかりの新しい分野ですが、既に高成長を遂げています)。さらに従業員が目的意識を持って生産的に働けるように「One Autodesk」というスローガンを掲げ、インクルーシブな環境の実現と、コラボレーションに重点を置いた企業文化の進化を推進しています。

オートデスクのお客様の間では、炭素を計測・管理・削減するためのソリューションを求める声が近年高まっています。特に欧州における需要が高く、アジア太平洋地域にもその動きが広がっています。これに対してオートデスクは業界別クラウド プラットフォームのビジョンのもとにシームレスなデータ相互運用性と連携ワークフローのソリューションを提供しています。お客様はこれを活用することで、プロジェクト全体のエネルギーや資材の選択を最適化し、生産性と効率を高めることができるため、最終的によりサステナブルなプロジェクトを実現できます。その効果は既に有意義な事業成果に表れていますが、今後さらにサステナビリティの拡大を促進する可能性があると考えています。

ジェネレーティブ AI はまだハイク サイクルの過渡期にある新しいテクノロジーですが、既にお客様に価値をもたらし始めています。そしてオートデスクは、AI の成長を支えるインフラの脱炭素化と、サステナブルな成果を支援する AI の活用に、積極的に取り組んでいます。AI の活用を通じて未来を実現していく過程にはさまざまな課題があることが予想されますが、私たちはリスクと機会の間でバランスを取りつつ、さまざまな面を考慮しながらアプローチを推進しています。

オートデスクが事業を展開する広範なエコシステムにおいては、変革の推進に役立つ包括的なソリューションを求める声がますます高まっています。その需要に応えるために、私たちは今後もグローバルに連携しながら、ホールライフ カーボンの計算やサステナビリティ データの可用性およびアクセスといった業界全体の課題の解決に取り組んでまいります。また、デザインと創造(Design & Make)のソリューションを提供するリーディングカンパニーとして、自社の担う重要な役割を自覚し、さまざまな議論に参加しながら、業界全体の利益を追求してまいります。

「重要なのは、短期課題への対処と長期視点の両立です。現在の課題に向き合いつつ、持続的なポジティブな成果を目指します」

この激動の時代にも、ポジティブな未来につながる機会は潜んでいます。再生可能エネルギーに対する世界の投資額は、昨年 2 兆ドルを突破しました。気候関連情報開示の規制導入が拡大したことで、投資家や公共セクターがリスクと機会を明確に把握できるようになり、世界の進化をさらに後押ししています。また、低炭素ソリューションへの需要も高まり続けています。

オートデスクは、従業員やお客様、投資家の皆様と共に歩み続けられることを嬉しく思い、その先に開ける未来を楽しみにしています。目の前の課題解決と未来の目標達成の間でバランスを取りながら、皆で力を合わせて取り組むことで、すべての人々にとってより良い世界をデザインし、創造していけると信じています。

**アンドリュー・アナグノスト**  
社長兼最高経営責任者

**ジョー・スパイカー**  
最高サステナビリティ責任者



## オートデスクの対象業界

### 建築・エンジニアリング・建設・運用(AECO)

建物やインフラ、産業プロジェクトの設計・施工・運用を支えるソフトウェアを提供しています。

### 設計・製造(D&M)

製品開発・製造ソフトウェアを提供しています。設計・製造プロセス全体を通じてプロジェクトを支援する包括的なソリューションを搭載します。

### メディア & エンターテインメント(M&E)

映画・テレビ・ゲーム制作スタジオに向けた幅広いソリューションを提供しています。コンピューター グラフィックスのリアルなキャラクターや臨場感あふれるシーン、魅力的なエフェクトなど、創造の可能性を最大限に探究できる機能に加えて、制作管理やレビューなどの機能も搭載します。



# FY25 のハイライト

→ 詳細については、『FY25 インパクト レポート』のフルバージョン(英語)をご覧ください。

オートデスクの対象業界における

## 50 社

以上の企業と提携して

**サステナビリティ技術パートナー プログラム**  
を実施し、サステナブルな成果を推進

持続可能な開発のための世界経済人会議  
(WBCSD) および建築・エンジニアリング業界  
をリードするグローバル企業 6 社と提携し、

**エンボディド カーボン  
の計測に BIM を活用  
して一貫性を向上**

従業員が

## 30,400 時間 のボランティア活動 を実施

デザインと創造のプラットフォームが

**LA28 オリンピック・  
パラリンピック競技大会  
に公式採用される**

## 1,450 万ドル

の金融資本と

## 980 万ドル

の現物支援をオートデスク基金の  
ポートフォリオに提供

コミュニティ、市場、人材に関する  
世界的な需要の変化に対応するために

## オートデスクの 企業文化の進化

を推進する取り組みを開始

エンボディド カーボンを含む  
環境パフォーマンスを  
建築設計者が最適化できるように

## Autodesk Forma の 機能

を拡張し、設計初期段階の  
インサイトも取り組む

vPPA 開始により、初年度は

## 約 6,000 MWh

相当の再生可能エネルギー証書を取得  
(Liberty Solar 社と締結)

(約 155,000 トンの CO<sub>2</sub>e に対する)

社内炭素価格を 20 ドル/トンから

## 33 ドル/トン

へ引き上げ

## Autodesk AI

でサステナブルな成果を加速

オートデスクの

## デザインと 創造の プラットフォーム

が、ノートルダム大聖堂の修復から、デリーメトロ  
鉄道による安全で効率的な交通アクセスの拡大、  
「Revolution Workshop」によるキャリア パスの  
提供まで、影響力のあるプロジェクトを幅広く支援



# 戦略とガバナンス

## インパクト戦略

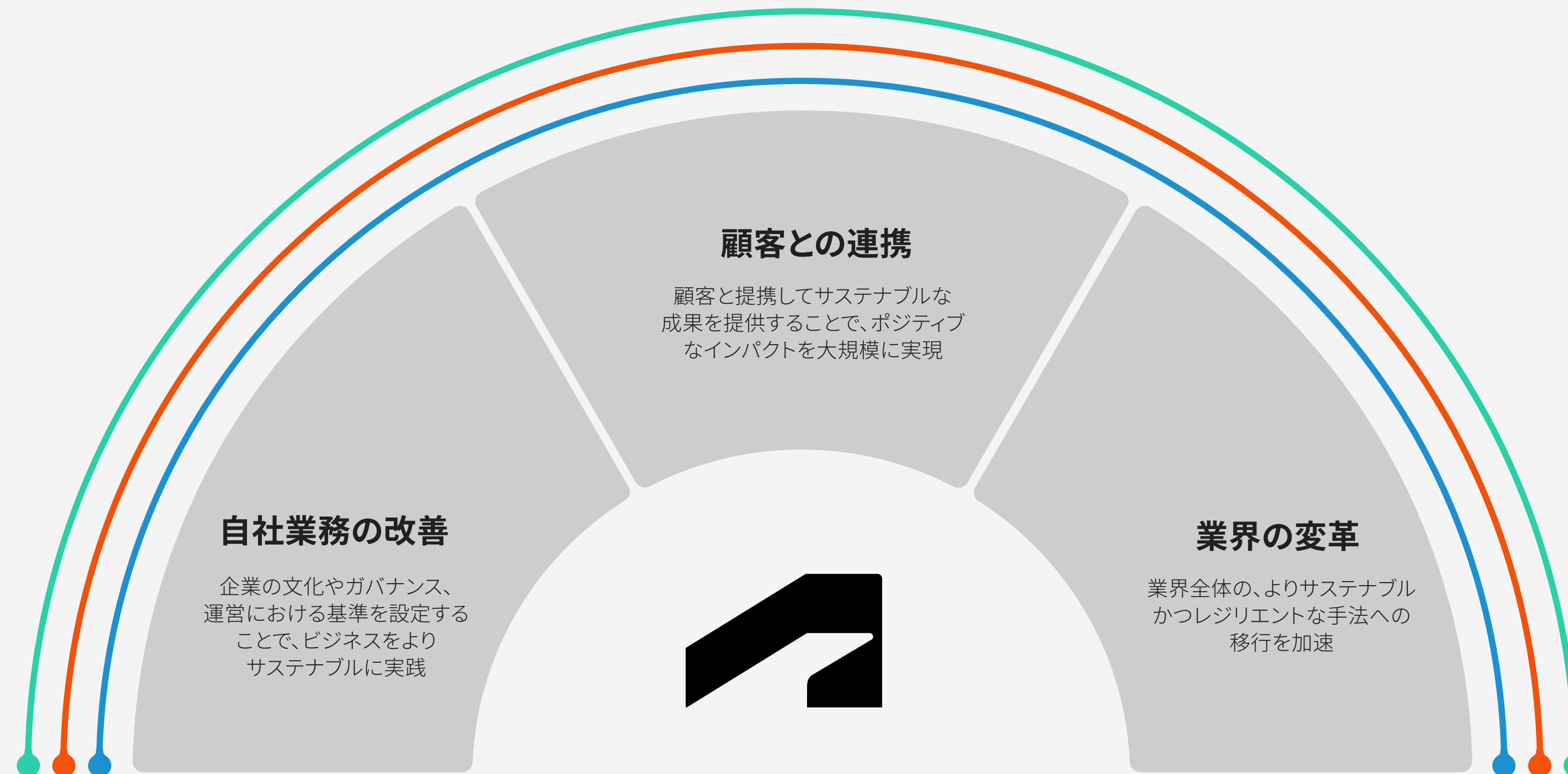
オートデスクは、幅広い業界のお客様と提携しながらポジティブなインパクトを創出し、信頼関係を構築することで、ビジネスやお客様、さらには世界にとってより良い成果を実現することを目指して取り組みを続けています。

当社は、3 つの主要分野でポジティブな成果の拡大に取り組んでいます。このインパクト活動の対象領域は、当社ステークホルダーにとって最も重要なニーズや、当社業務における最重要課題、そして大規模なポジティブインパクトを加速させるために最適な分野を考慮して、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に基づき決定しました。

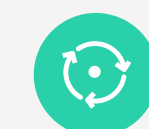
→ オートデスクのインパクト戦略の評価については、[こちら\(英語\)](#)をご覧ください。

→ [国連の持続可能な 開発目標\(英語\)](#)に向けたオートデスクの取り組みの詳細をご覧ください。

→ [戦略とガバナンス\(英語\)](#)の詳細をご覧ください。



## インパクトの対象領域



### エネルギー・資材

エネルギーと資材のより良い選択を導き、二酸化炭素排出量と廃棄物を削減します。



### 健康・レジリエンス

より安全、健康的かつレジリエントな空間・製品のデザインと創造を加速させます。



### 仕事・繁栄

オートデスク製品を利用する業界の人材ニーズに対応するために、需要の高いスキルの習得や生涯学習を促進します。

# サステナブルな ビジネスの実践目標\*

→ [オートデスクの実践\(英語\)](#)の詳細をご覧ください

## 排出量の削減

50%

FY31 までに、スコープ 1、2 の温室効果ガス排出量を FY20 比で 50% 削減

SBTi 認定取得  
29.0% の削減を達成<sup>†</sup>

55%<sup>‡</sup>

FY31 までに、粗利益 1 ドルあたりのスコープ 3 の温室効果ガス排出量を FY20 比で 55% 以上削減

SBTi 認定取得  
60.4% の削減を達成

26.5%

購買した商品・サービスおよび出張に関するサプライヤー (排出量別) の 26.5% が、科学的根拠に基づいた目標を FY27 までに設定

SBTi 認定取得  
20.6% 達成済み<sup>§</sup>

\* 2021 年に設定した SBTi 認定目標については、5 年ごとのサイクルでレビューを実施します。そのプロセスの一環として、基準値も更新する予定です。ここに報告する進捗は、更新された基準値の暫定推計値および FY25 の推計に基づいています。この推計には冷媒が含まれますが、オートデスクの会議に参加する社外従業員の航空移動は含まれません。詳細については、[データの概要\(英語\)](#)をご覧ください。

† FY20 の基準値から 29.0% 減少した理由は、オートデスクのリース車両からディーゼル車を排除し、オフィス面積を 6% 削減し、北米の職場に関するデータ精度を高めたためです。FY20 の基準値を更新し、施設の冷媒漏洩に関連する温室効果ガス排出量を含めました。冷媒からの排出量は、FY25 の温室効果ガス排出量データにも反映されています。

## 再生可能電力の調達

オートデスクはビジネス全体でサステナビリティを実践する取り組みを継続的に推進しています。現在のビジネス環境においては、こうした取り組みをあらゆる企業が行う必要があります。当社のプログラムは、効率化や自社のフットプリント削減に留まらず、顧客やパートナーのサステナビリティ活動にも効果をもたらす内容となっています。

100%

FY21 までに、自社施設や共同設置型データセンター、クラウド サービス、従業員の在宅勤務のために再生可能な電力源を 100% 調達\*\*

達成済み、継続中

## 残留炭素排出量の相殺

スコープ 1、2、3 について、FY21 から毎年実施

達成済み、継続中

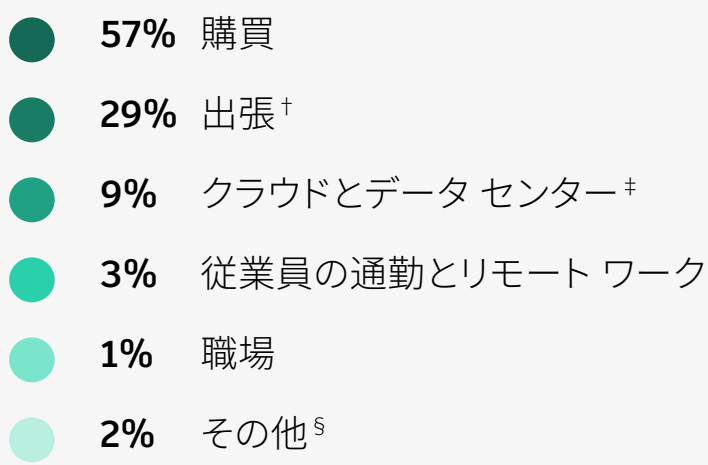
→ [詳細はこちら\(英語\)](#)

‡ 当社が購買した商品やサービス、出張、従業員の通勤、燃料・エネルギー関連活動に関する排出量の一部を対象とする、承認された科学的根拠に基づく目標です。

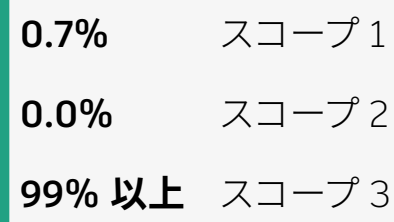
§ オートデスクのサプライヤーごとの支出や排出要因は毎年変化する可能性があり、この目標の進捗に影響を及ぼす可能性があります。これらの要因を考慮してパフォーマンスのバフファを設けるために、排出量別のサプライヤーの割合を、表明した目標の 26.5% よりも高くすることを目指しています。

\*\* オンサイトで生成された再生可能エネルギー、仮想電力購入契約、再生可能エネルギー証書を組み合わせたものを指します。この目標の文言は、オートデスクが 2015 年に RE100 宣言で表明した「再生可能電力を 100% 調達する」という当社の目標に合わせて、過去の報告と比較した上で修正しました。

## FY25 の 温室効果ガス総排出量(市場ベース)



## FY25 の 温室効果ガス総排出量(市場ベース)、スコープ別



\* パフォーマンス指標の詳細については[データの概要\(英語\)](#)をご覧ください。  
† オートデスク社員の移動に伴う温室効果ガス排出量です。サステナブルな航空燃料による温室効果ガス排出削減量を計上しました。  
‡ オートデスクの共同設置型データセンターの温室効果ガス排出量およびサードパーティクラウドの温室効果ガス排出量が含まれます。  
§ 燃料・エネルギー関連活動 (1%)、上流工程の輸送 (0.5%)、廃棄物 (0.1%)、下流工程のリース資産 (0.2%)、イベント (0.1%)、社用車 (0.2%) が含まれます。



# オートデスクの グローバルな 企業文化

オートデスクの企業文化は、当社の強固な強みです。「One Autodesk」というスローガンのもと、従業員が連携し、共通の目標に向けてインクルーシブなチームで共同作業を行っています。私たちは、世界の進化とともに進化し続けています。

## 進化し続ける企業文化

FY25 には、コミュニティ・市場・人材に関する世界的な需要の変化に対応するために、企業文化の進化を推進する取り組みを開始しました。社内のパフォーマンスを高め、競争力を維持し、画期的なテクノロジーを開発することで、すべての人々にとってより良い世界のデザイン・創造を支援することを目指しています。

オートデスクは、ユニークかつ卓越した自社の文化をより深く理解するために、全社的にインサイトを収集し、進化の機会を探りました。

FY25 は、主に次のような活動を行いました。

**企業文化についての調査:** 複数部門の従業員およびリーダーを含む多様な層を対象にさまざまな調査を実施したほか、すべての従業員を対象としたグローバル調査で、現在の企業文化をどう思うか、また、それを今後どのように発展させたいかについて意見を募りました。

**部門横断的な視点:** 社内外の視点を反映させた総合的な見解を収集するために、マーケティング、ブランド、カスタマー エクスペリエンス、製品、プラットフォーム、トラスト、人事などの各チームにインタビューを実施し、諮問グループを設立しました。

**文化研究所:** 全社から 100 名の従業員およびシニアリーダー層を招集し、当社の企業文化における良い点や改善したい点について意見をヒアリングしました。

→ [詳細はこちら\(英語\)](#)



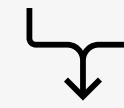
## 企業文化の調査で得られた重要テーマ



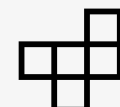
人を第一に考える



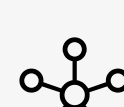
イノベーションを促進



意思決定を最適化



「One Autodesk」の  
コラボレーションを支援



信頼性を強化



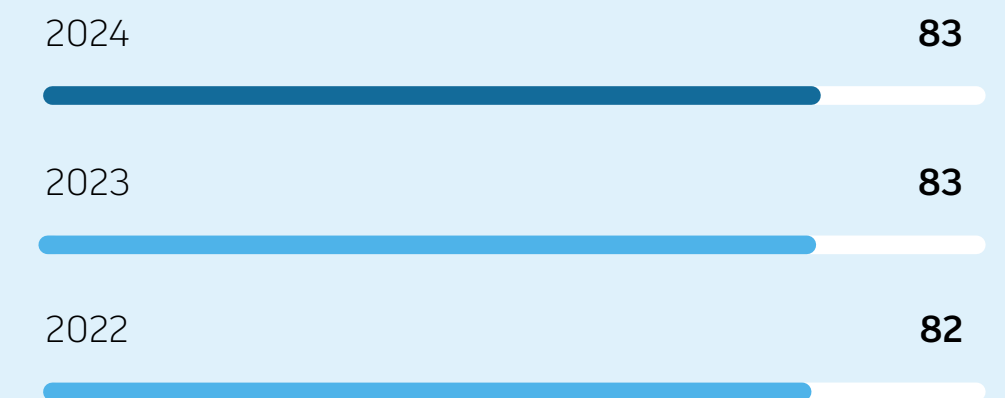
高パフォーマンスを推進

## 従業員のエンゲージメントと 定着率を高める企業文化

オートデスクは従業員をしっかりとケアし、帰属意識を育み、ハイブリッド ワークの柔軟なアプローチを提供しています。これが強固な企業文化の醸成や、従業員のエンゲージメント向上に貢献していると、私たちは信じています。調査ベンダーの Glint 社に依頼して実施した従業員エンゲージメント調査で、オートデスクの 2024 年の従業員エンゲージメント スコアは 83 となりました。これは、同社が調査を実施した全企業の上位 10 パーセンタイルを 2 ポイント上回りました。<sup>11</sup>

オートデスクの企業文化は離職率の低下にも貢献していると考えています。FY25 における全社の自発的および非自発的な離職率は 8.3% で、2023 年 1 月 31 日時点における世界のソフトウェア業界の平均 11.0% を下回り、業界の 25 パーセンタイル未満の値となりました。また、FY25 の自発的な離職率は 4.5% で、業界平均の 8.1% を下回り、4 年連続で業界の 25 パーセンタイル未満となりました。<sup>12</sup>

## 従業員エンゲージメント\*



\* 特定の会計年度に 2 回実施されたパルス調査の平均従業員エンゲージメントスコアを示します。エンゲージメント スコアは 1 ～ 100 のスケールで、従業員満足度 (eSat) と推奨度 (Recommend) の 2 つの質問の平均結果を示します。これらのデータは暦年ベースで報告されます。



# サステナビリティを実現するソリューション：AECO

建築・エンジニアリング・建設・運用（AECO）向けのオートデスク ソリューションを使用すると、設計初期からのインサイト活用で効率を最適化し、プロジェクトのライフサイクル全体のデータ連携を確保してサステナブルな成果に繋がります。エネルギー消費量や二酸化炭素排出量の削減、気候変動への適応、水管理、資材や廃棄物の削減に関する課題に取り組む上で役立ちます。

## 建築設計とエンジニアリング

- 高パフォーマンスな建物設計
- 全体的な炭素効率を最適化
  - 設計と資材の仕様によってエンボディド カーボン削減
  - プロジェクトにおける重要な段階で、エネルギー解析を実施
  - 空調システムの設計を最適化
- 設計中に干渉チェックを行い、施工における廃棄物を削減
- スマートな解体と資材回収を計画
- 構造資材の効率性を改善
- 用地計画を AI で最適化し、日照、騒音、風環境などの情報に基づいて意思決定を実施
- 微気候解析で、都市のヒート アイランド現象を緩和

## インフラ

- 気候変動に対するレジリエンスと適応力を備えたインフラを計画、設計
- 周辺の建物や自然条件を組み込み、プロジェクトを視覚化
- 地理的なコンテキストやサステナビリティを考慮して、設計に GIS データを組み込み、全体の設計時間短縮と複雑性の低減を図る
- 現況と完成後の資産を把握・検証することで得たインサイトに基づいて、計画フェーズの適切な意思決定を導出
- シミュレーションを実行し、設計が環境や社会に及ぼす影響を評価

- 交通流と移動性に対する影響を調査
- グレーディング最適化のシナリオを評価することで、資材の無駄を最小限に抑え、移動する土量を最適化
- 内陸・沿岸部の洪水プロジェクトの成果を最適化
- バイオリテンションとグリーン雨水インフラを管理
- 道路のエンボディド カーボンと天然資源の使用量を削減
- 排水ネットワークとパイプを最適化して洪水を軽減
- 水を再利用できるサステナブルな都市の排水貯水池を設計し、雨水を資源に転換
- 下水道の氾濫を引き起こす事象や暴風雨を予測し、施工中の安全を確保
- きれいな飲み水を確実にエンド ユーザーに届けるために、配水システムをモデル化
- 下水回収、排水処理場、その他の水質関連システムをモデル化し、シミュレーションを実行
- 実用的なリアルタイムのインサイトを使用して、水道サービスの信頼性を向上
- 緊急事態に備え、メンテナンス スケジュールを管理
- 上下水道処理施設におけるエネルギー、化学薬品、水の使用量を AI で最適化し、削減

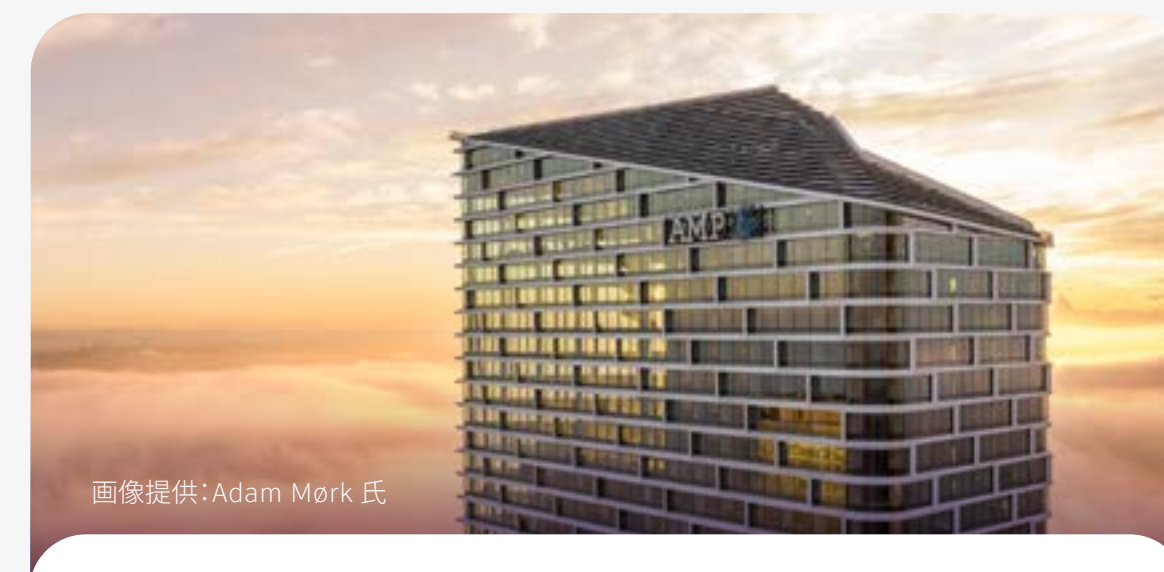
## 建設

- 低炭素資材を調達し、エンボディド カーボン削減
- 機械・電気・配管の製造および設置における廃棄物を最小化
- 包括的なリーン コンストラクション テクノロジーでフロー改善、廃棄物削減、継続的改善を推進
- プレハブ工法をシームレスにプロジェクトに統合
- 労働者の健康と安全性を向上
- 常に適切な計画とドキュメントに基づいて作業することで、手戻りや廃棄物の発生を回避
- 精度を向上させ、建物パフォーマンスを最大限に高める

## 運用

- BIM データをセンサー入力などの運用データと接続して、建物資産のデジタル ツインを作成
- 建物システムをほぼリアルタイムにモニタリングして問題を早期に検出し、資産の寿命を延長
- 設計目標に対する実際のエネルギー使用量を比較して非効率な点を特定し、省エネを推進
- パフォーマンスの経時的な傾向を分析し、運用改善とメンテナンスコスト削減の長期的な機会を特定
- 建物利用者へのサービスとエンゲージメントを向上し、より安心・安全な環境を提供し、ワークスペースの利用を最適化
- 資産の設計情報を運用プロセスと統合し、設備の故障やメンテナンスのコストを削減

→ [詳細はこちら（英語）](#)



画像提供: Adam Mørk 氏

### 世界一高いアップサイクルの超高層ビル

BG&E 社は Autodesk Construction Cloud と Autodesk ReCap を活用して高層ビルを再建し、キークォーター タワーを完成させました。これにより、元の資材の 70% を再利用し、作業期間を数ヶ月短縮し、コストを削減することができました。

→ [詳細はこちら](#)



### ノートルダム大聖堂の修復：レジリエンスと再生の物語

公的機関の Rebâtir Notre-Dame de Paris は、オートデスクの BIM モデルとソフトウェアを活用することで、従来なら不可能だった方法で大聖堂の構造を視覚化することができました。

→ [詳細はこちら（英語）](#)



画像提供: Revolution Workshop

### サステナビリティを見据えたスキルアップで未来の人材を育成

Revolution Workshop の施工プロフェッショナル キャリアパスプログラムでは、学生たちが AutoCAD やプロジェクト管理の基本を学び、エントリー レベルの仕事に必要なスキルを習得できます。

→ [詳細はこちら（英語）](#)



# サステナビリティを実現するソリューション：D&M

設計・製造（D&M）向けのオートデスク ソリューションを使用すると、設計の初期段階からインサイトを活用して効率性を最適化し、プロジェクトのライフサイクル全体にわたる円滑なデータ フローを確保し、サステナブルな成果を達成することができます。エネルギー消費量や二酸化炭素排出量の削減、材料の使用量や廃棄物の削減に関する課題に取り組む上で役立ちます。

## 材料の影響と循環性

- ・ ジェネレーティブ デザインで材料効率と軽量化を両立し、廃棄物を削減
- ・ ジェネレーティブ デザインでコンポーネントを統合することで、組み立て/分解を容易化し、在庫を削減
- ・ ジェネレーティブ デザインでサステナブルな材料を検討、選択
- ・ 複数の部品をネスティングして板金からの切り出しを最適化し、廃棄物を削減
- ・ 材料の歩留まりを最適化
- ・ 積層造形のプリント設定を最適化して材料の効率と品質を高め、廃棄物を最小化
- ・ ハイブリッド製造で部品を修理し、廃棄物を最小化
- ・ 幾何公差解析で品質を向上し、不良率を低減
- ・ ジオメトリの重複検出と部品の標準化で、冗長な部品の作成や発注を削減
- ・ 公差解析によって適切なはめあいを維持し、機械加工のコストと廃棄物を削減
- ・ 強化された FEA シミュレーションで耐久性を高める設計を作成

## 運用効率とスマート マニュファクチャリング

- ・ 工場レイアウトの計画と検証で、生産効率とリソース消費を最適化
- ・ 電子機器や電子機器冷却機能のシミュレーションを実行し、エネルギー効率の高い電子機器や機械を設計、製造
- ・ 射出成形で機械の稼働時間と冷却サイクルを最適化することで、生産のエネルギー使用量を削減

## サプライチェーンのレジリエンス

- ・ サプライヤーを監査し、製品の品質とコンプライアンスを確保
- ・ 不具合解析とレポート機能で品質を向上
- ・ 材料やサプライヤーの申告に関する規制を遵守

→ [詳細はこちら\(英語\)](#)



画像提供: Apiar

## サステナブルなイノベーションを見据えた次世代の育成

工学院大学のソーラー カー チームは、Fusion を活用して太陽光発電自動車を設計・製作し、オーストラリアで開催された「ブリダストン ワールド ソーラー チャレンジ 2024」に出場しました。

→ [詳細はこちら](#)



画像提供: Decathlon

## イノベーションヘダイビング:環境に配慮したダイビングフィンの革命

Decathlon 社は Autodesk Fusion のジェネレーティブ デザインを活用してダイビング フィン「React」を開発し、重量とカーボンフットプリントを市場ベンチマークの半分に削減することに成功しました。

→ [詳細はこちら](#)



画像提供: Adæpt

## 脳性麻痺の人々を支援するインクルーシブ デザイン

脳性麻痺の人々がデジタル世界を自由かつ自立的に操作できるように支援する物理的なタッチパッド デバイス Adæpt の開発で、Autodesk Fusion は重要な役割を果たしました。

→ [詳細はこちら\(英語\)](#)



# サステナビリティを実現するソリューション：M&E

メディア & エンターテインメント (M&E) 向けのオートデスク ソリューションには、バーチャル セットの作成を効率化するデジタル ツールなどが含まれます。物理的な無駄や出張関連の二酸化炭素排出量を大幅に削減できるほか、スタジオのデジタル化を推進してリソースを節約し、魅力的なアートの制作という本来の仕事に集中できるようになります。

## クラウド コンピューティングとレンダリング

- ・ クリエイティブのワークフローを効率化
- ・ Flow のリアルタイム データで、複数拠点に分散する制作チーム間の連携を実現
- ・ メディアのレビューやリソース管理、期日の追跡などのパワフルな機能で、共同作業を効率化
- ・ グローバルなチームが情報やデータを効率的にやりとりできるコラボレーション環境を構築

## リモート制作のサポート

- ・ 社内外の関係者とのコラボレーションが向上
- ・ OpenUSD や MaterialX のデータを直接操作し、さまざまなレンダーに対応するマテリアルを作成
- ・ 最新の高性能なビューポートで、複雑なシーンをリアルタイムにレビュー

## AI などの先進的な機能

- ・ 強化されたモディファイヤで複雑なモデリング作業をプロシージャルに行い、機能向上したリポトロジでモデルをわかりやすく整理し、高度なモーション パスで優れたビジュアライゼーションやアニメーションの微調整を実現
- ・ 機械学習 (ML) デフォーマでアニメーションの微調整やパフォーマンス向上を図り、強化されたモディファイヤで複雑なモデリング作業をプロシージャルに行い、機能向上したリポトロジでモデルをわかりやすく整理
- ・ Autodesk AI 搭載のジェネレーティブ スケジューリングで、制作スケジュールの作成を自動化し、リソースや依存関係のある作業に影響する重要な意思決定を迅速に行い、制作をさらに効率化するなど、AI 駆動のスケジューリングを実現

## リモートのコラボレーション

- ・ 撮影後すぐに、プリプロダクション データをレビューし、カメラデータを直接クラウドにストリームし、編集やポストプロダクションの作業を開始
- ・ VFX チームやアニメーション チーム向けのクラウドベースのプロジェクト追跡管理

→ [詳細はこちら \(英語\)](#)



画像提供: z-emotion

### ソウルを拠点とする z-emotion 社がテクノロジーとファッション業界の融合を推進

z-emotion 社は、Autodesk Maya や Unreal Engine とデジタル ファッションを統合するプラグインを活用することで衣服に命を吹き込み、製品の写真撮影の必要性を低減し、時間・材料・マーケティングにかかるコストを節約しています。

→ [詳細はこちら \(英語\)](#)



画像提供: SuperGenius

### 柔軟かつオープンマインドなゲーム開発プロセスのアプローチ

SuperGenius 社は、アーティストやクリエイターが本来の創造的な仕事にフォーカスできるように、Autodesk Maya、3ds Max、MotionBuilder を活用して技術的なプロセスを合理化しています。

→ [詳細はこちら \(英語\)](#)



# 業界の変革

## より広範なエコシステムをサポート

産業の脱炭素化から、気候変動に対するレジリエンスの確保、労働力の変革まで。世界は現在、あらゆる人々に影響を及ぼす複雑で多面的な課題を抱えています。これらの課題はたった 1 つのソリューションや 1 つの組織で解決できるものではありません。

そこでオートデスクは、自社の事業のサステナビリティを高めるだけでなく、お客様がよりサステナブルなデザインと創造を実現できるように支援しているほか、業界全体の変革を通じてサステナビリティとレジリエンスを強化する体系的な取り組みも行っています。オートデスクは、バリュー チェーン全体のお客様をサポートするデザインと創造のプラットフォームを通じて、体系的な進化を推進する独自の機会を創出するという責任を担っています。

当社は技術革新の拡大、連携による共創、政策対話への参画という 3 つの柱で市場の変革を後押しします。オートデスク基金、パートナーシップ、研究、公共政策の横断チームが連携し、低炭素化とレジリエンス強化を加速します。

また、同業者や競合他社、政策立案者、慈善家、NGO、民間・公共セクター、市民社会関係者などと緊密なパートナーシップを構築し、互いに協力しながら時間をかけて取り組みを行っています。オートデスクはこうした活動を通じて、業界におけるサステナビリティ活動を広め、ポジティブな影響を大規模に波及させ、未来を見据えた産業の成長を促進することを目指しています。

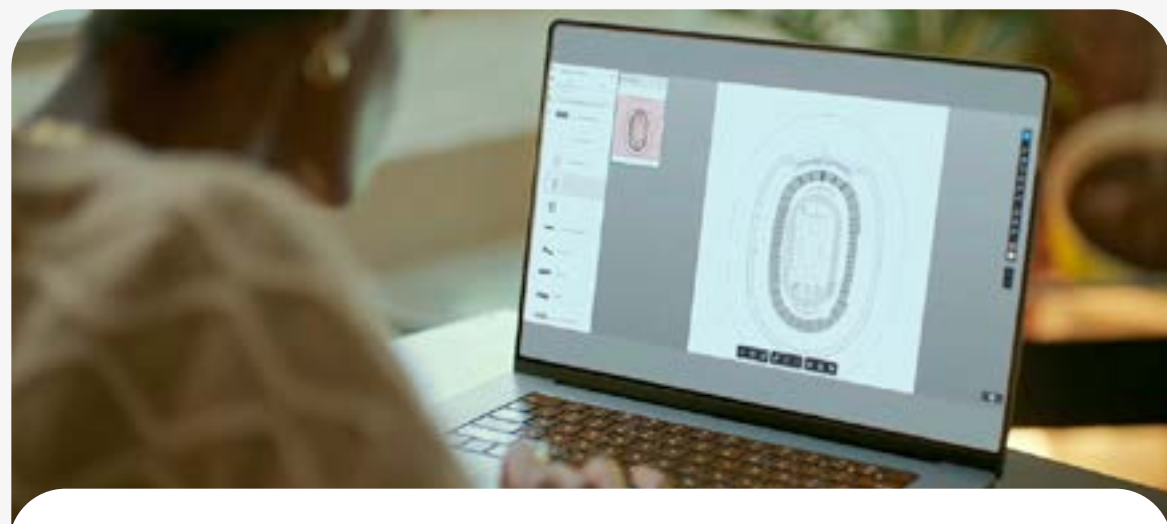
→ [詳細はこちら\(英語\)](#)

## パートナーシップ

オートデスクは FY25 に、建築環境のデジタル化と脱炭素化に重点を置いたパートナーシップ戦略を策定しました。また、データ、自動化、インサイトの活用を通じてより優れた成果を実現する機会を創出するために、低炭素ソリューションの意欲的な目標を設定したほか、エンタープライズとスタートアップの連携を促進しました。

オートデスクが開発するテクノロジー ソリューションは、世界中で広く利用されています。そのため当社は、サステナブルな成果を実現へと導く機会と責任を有していることを自覚しています。テクノロジーは、業界全体の体系的な変革を実現するためのパワフルな手段となります。特に民間・公共セクターと市民社会の間で強固に連携し、革新的なコラボレーションを推進できる環境があれば、テクノロジーは強大な力を発揮します。

そこでオートデスクは、インパクト パートナーシップを通じて多方面にわたる影響力を発揮するとともにテクノロジーを駆使することで、スケーラブルかつサステナブルな成果を創出し、セクター全体の課題を解決するために取り組んでいます。また、幅広い業界のパートナーやお客様との提携を通じて成功を収めています。関係資本を構築し、機会を見出し、触媒となって連携した活動を導くことで、業界全体の意欲的な活動を促進し、有益な情報を提供し、相互に関連している多様な環境・社会課題の特定と解決を支援しています。



### LA28 オリンピック・パラリンピック競技大会

オートデスクは LA28 に向けて、南カリフォルニアに 40 以上の競技会場や主要な非競技会場を準備するための改修や設計を支援します。

→ [詳細はこちら](#)

## 調査

Autodesk Research はオートデスクの研究機関です。デザインと創造におけるさまざまな課題を解決するために、テクノロジーの新たな活用方法を探求しています。オートデスクの産業研究者チームに加えて、イノベーションの最前線をリードする人々のグローバル ネットワークがその活動を支えています。データを活用したファブリケーションのワークショップや先進的なアイデアを通じてイノベーターにパワーを与え、新たな可能性の実現を促進しています。

このエコシステムでは、高度な研究チームが革新的なテクノロジーを調査し、オートデスクのデザインと創造のプラットフォームの進化を加速させる応用方法を探求しています。そしてオートデスクの対象業界のニーズにさらに応えながら、変化し続けている未来の仕事に備えることを目指しています。また、お客様が実際にどのような課題に直面しているかを理解するために、業界のエキスパートや他の研究所、意欲的なスタートアップ、著名な学術チームなど、志を同じくする協力者を募っています。研究チームはこうした協力者と広く提携しながら、最新の先進的な学術的手法や発見などの情報を収集し、そこから得られたインサイトや体験をオートデスクの学習や研究に取り込み、進化を推進しています。



画像提供: Highland Park Technologies

### 環境に配慮した改修による省エネ住宅の推進

Highland Park Technologies 社の住宅プログラムでは、居住者への影響を最小限に抑えながら、サステナビリティと手頃な価格を優先的に実現するための新たな手法やテクノロジーを開発しています。

→ [詳細はこちら\(英語\)](#)

## 公共政策

オートデスクがサポートする業界が革新的かつサステナブルな成果を推進する上で、公共政策は重要な役割を果たしています。オートデスクは、「すべての人々にとってより良い世界をデザイン・創造しているイノベーターにパワーをもたらす」という大きなミッションの一環として、政府関連業務や公共政策に関する取り組みも行っています。戦略的なアイデアの提唱や、業界におけるパートナーシップの構築、規制当局との連携といった取り組みを通じて、技術の進歩や環境のサステナビリティ実現、人材の育成につながる政策を導くことを目指しています。

[トランプ・バンス政権および第 119 議会に対するオートデスクの政策提言\(英語\)](#) もご覧ください。



### 国連気候変動会議への継続的な参加

建築・建設分野のコミュニティの代表者やパートナー企業、政策立案者による会議に参加し、トータル カーボン マネジメント、サステナブルな開発、脱炭素化などの分野について、皆で力を合わせて進化を促進する方法を話し合いました。

→ [詳細はこちら\(英語\)](#)



# オートデスク 基金

オートデスクは 2014 年に、オートデスク基金の慈善団体を設立しました。オートデスクの産業エコシステムを強化・改善し、よりサステナブルかつレジリエントにするために、資金やテクノロジー、さらには世界中の従業員の能力を活用した支援を、この慈善団体を通じて提供しています。

オートデスクの対象業界を変革し、サステナビリティとレジリエンスを強化するために貢献している世界中のスタートアップや非営利団体のポートフォリオに、オートデスク基金は投資しています。オートデスクテクノロジーや触媒的資本、さらには自社の人材プールを組み合わせた支援を通じて、規模拡大を目指す組織の成長を後押ししています。こうした取り組みによって新たなイノベーションを支援し、変化し続ける設計・エンジニアリングソリューションのリスクを軽減しています。

オートデスクは、当社がインパクトをもたらすことのできる対象領域（エネルギー・資材、健康・レジリエンス、仕事・繁栄）の組織に対して投資を行っています。投資に関する意思決定は、変化に関する理論や投資に関する論文に基づいて行っています。また、レポート、評価、デューデリジェンスの一環であるインパクト計測管理 (IMM) の実践を通じてインパクトの成果を追跡しています。

オートデスク基金は、資本とリソースをより効果的に活用できる最前線の新たなインパクト分野を支援するために、調査に投資し、ポートフォリオ組織と共に積極的な学習を継続的行なっています。

→ [詳細はこちら \(英語\)](#)

→ 詳細については、『FY25 インパクトレポート』のフルバージョン (英語) をご覧ください。

## 金融資本

オートデスクは基金ポートフォリオの組織に対して、使途が制限されない助成金やインパクト投資という形で、柔軟性のある触媒的資本を提供しています。

1,450 万ドル

FY25 にオートデスク基金は、戦略的慈善活動を通じて世界中の 60 の非営利団体、インパクト基金、スタートアップに 1,450 万ドルを拠出

→ [詳細はこちら \(英語\)](#)



FY25 の資金配分

- 17% エネルギー・資材
- 45% 健康・レジリエンス
- 38% 仕事・繁栄

## 現物支援

オートデスクにとって最も価値あるリソースは、テクノロジーと人材です。当社はこれらのリソースを、業界の変革に必要なイノベーションを拡大するために、ポートフォリオ組織に提供しています。

980 万ドル

FY25 は 980 万ドル相当の現物支援をポートフォリオに提供

90%

FY25 は、オートデスク基金ポートフォリオの 90% に、オートデスクのテクノロジーと人材サポートを提供

## テクノロジー

FY25 にオートデスクはテクノロジー インパクト プログラムを通じて 840 万ドル相当のオートデスク ソフトウェアをポートフォリオ組織に寄付しました。また、ソフトウェアに加えて、設計プロセスを改善するための技術サポートや、トレーニング、コンサルティングも提供しています。

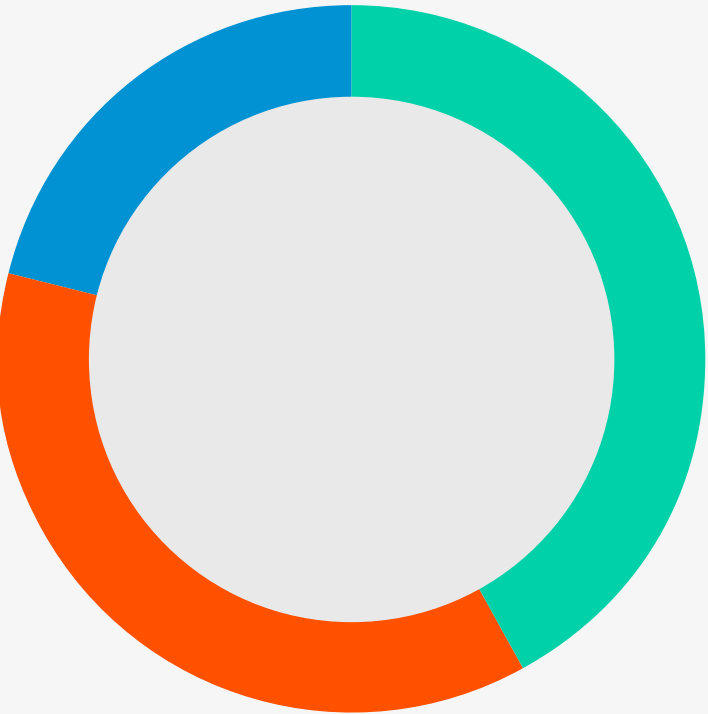
→ [詳細はこちら \(英語\)](#)

## 人材

オートデスクは、ポートフォリオ組織に知識やスキルを提供するプロボノ コンサルティングに参加することを従業員に奨励しています。FY25 は、オートデスク従業員がマンツーマンまたはチームで 31 のポートフォリオ組織に 2,500 時間以上のプロボノ コンサルティングを提供しました。このプロボノ プロジェクトは、データ管理・分析からエンジニアリング、マーケティングまで多岐にわたります。

→ [詳細はこちら \(英語\)](#)

FY25 の現物支援内訳



- 42% エネルギー・資材
- 37% 健康・レジリエンス
- 21% 仕事・繁栄





将来的な予想に関する記述

本レポートには、将来的な計画、期待、信念、意図、および見通しに関する記述が含まれます。これは「将来的な予想に関する記述」として、1995 年米国民事証券訴訟改革法、米国 1933 年証券法の第 27A 条、1934 年証券取引所法の第 21E 条に定義される通りです。将来的な予想に関するこれらの記述は、本レポート全体に含まれます。「おそらく」、「だと思ふ」、「可能性がある」、「期待される」、「予想される」、「推定される」、「意図する」、「戦略」、「未来」、「機会」、「計画する」、「すべきである」、「するだろう」、「する予定である」、「求める」、「目指す」、「探す」、「見る」、「継続する」などの表現や、当社の将来的な取り組みに関する記述は、未来を見据えた記述となります。将来的な予想に関する記述は、現時点における予想や仮定に基づくものであり、実際の結果に大きく異なる結果をもたらす可能性のあるリスクや不確実性を伴います。このような違いを引き起こす、または寄与する可能性のある要因については、フォーム 10-K および 10-Q の「リスク要因」というタイトルのセクションに説明がありますが、これに限定されません。こうした将来的な予想に関する記述は、あくまで本レポートの日付時点でのものであり、過度に信頼することはできません。私たちは、新しい情報や、将来的な事象、その他の理由に基づいて、将来的な予想に関する公式的な記述を更新または修正する義務を負いません。

Autodesk、オートデスクのロゴ、AutoCAD、3ds Max、Autodesk Construction Cloud、Autodesk Flow、Autodesk Forma、Autodesk Fusion、Autodesk Tandem、Civil 3D、Flame、FlexSim、Info360、InfoDrainage、InfoWater、InfoWorks、InfraWorks、Inventor、Maya、Moldflow、MotionBuilder、Navisworks、ReCap、Revit、および Tinkercad は、米国およびその他の国々における Autodesk, Inc. およびその子会社または関連会社の登録商標または商標です。その他のすべてのブランド名、製品名、または商標は、それぞれの所有者に帰属します。オートデスクは、通知を行うことなくいつでも該当製品およびサービスの提供、機能および価格を変更する権利を留保し、本書中の誤植または図表の誤りについて責任を負いません。  
2025 Autodesk, Inc. All rights reserved.

将来の状況に関する報告

オートデスクは FY25 以降を見据えて、世界的に義務付けられているサステナビリティ報告基準に準拠するための準備を進めています。現在は、企業サステナビリティ報告指令 (CSRD) および欧州サステナビリティ報告基準 (ESRS) に規定される「ダブルマテリアリティの原則」に基づいて、サステナビリティ項目を評価するプロセスを社内で策定しています。当社はこのダブルマテリアリティの原則に基づく評価プロセスを定期的に更新することで、社内外の状況の変化を反映するとともに、今後さらに規制の変化の影響を受ける可能性がある CSRD および ESRS の要件に基づいて、オートデスクにとって重要 (マテリアリティ) なサステナビリティ項目を特定するダイナミックなアプローチを採用する予定です。

サステナビリティの格付け、ランキング、メンバーシップ

オートデスクは自主的にサステナビリティの報告を行うことで、当社のパフォーマンスを開示し、そのインパクトを評価し、幅広いトピックのサステナビリティに対するコミットメントを継続的に強化してまいります。これらの取り組みを通じて継続的に改善を行い、透明性を高め、事業全体における説明責任を果たしてまいります。

組織/機構	オートデスクの現在のスコア/取り組み
<a href="#">ブルームバーグ</a>	5.31/10 (主要)
<a href="#">CDP 気候変動</a>	B
<a href="#">コーポレート・ナイツ・グローバル 100</a>	66/100
<a href="#">エコバディス</a>	66/100、ブロンズ メダル
<a href="#">インスティテューショナル・シェアホルダー・サービシーズ (ISS) 社の品質スコアと企業格付け</a>	企業の ESG 格付け:C+ 品質スコア: 環境:3 社会:3 ガバナンス:2
<a href="#">モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル (MSCI) ESG 格付け</a>	AAA
<a href="#">RE100 (再生可能エネルギー イニシアチブ)</a>	メンバー
<a href="#">S&amp;P コーポレート・サステナビリティ評価 (CSA) (旧 DJSI)</a>	55/100
<a href="#">サステナリティクス</a>	15.1 (低リスク)
<a href="#">国連グローバル・コンパクト</a>	メンバー
<a href="#">持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD)</a>	メンバー